

大会連覇を睨む脇本雄太

第41回読売新聞社杯全日本選抜競輪は、2月20日〜23日の日程で開催される。舞台は、長走路時代の第23回大会以来となる熊本競輪場だ。SS班9名をはじめめとして、全国8地区を代表する健脚が集結して覇を競う。4日間に渡ってハイレベルな競走が繰り広げられよう。今年のGI第1弾を制し、グランプリ2026の出場権を真っ先に手にするのは果たして？

地区の総合力で優位に立っているのは、脇本雄太、古性優作、寺崎浩平、南修二と4名のSS班を擁する近畿勢だ。中でも脇本は異次元のスピードで別線をねじ伏せていて、1月和歌山記念の二次予選から、同月いわき平記念の決勝まで怒涛の7連勝。まだ左肘関節脱臼骨折の影響が残っているようだが、十分戦える状態に



脇本雄太

最近の調子も問題ない。好スパートなら押し切る場面もありそうだ。古性は評価が難しい。今年は1月大宮記念、同月高松記念in小松

島と動きが重く、本調子にはほど遠い感がある。ただ、セッティングを含め調整能力は高いだけに、本来のパフォーマンスを発揮できる状態に戻している可能性はある。初日の動きを見て再評価するのが賢明か。

郡司浩平、深谷知広、松井宏佑と自力型がそろった南関東も好勝負が見込める。初めてグランプリチャンプに輝いた郡司は、1月和歌山記念①②③着、同月高松記念in小松④①①④

北日本勢も戦力は整っている。新SS班の阿部拓真に新山響平、菅田孝道、中野慎詞、渡部幸訓と実力者がズラリ。新山、中野と超ド級の先行型を2枚擁しているのは強味だ。好連係を決めれば北日本勢が優勝をものしにしても不思議ではない。

九州勢は寛仁親王牌を制し、初のSS班となった嘉永泰斗をはじめ、荒井崇博、北津留翼、山崎賢人と個性派ぞろい。今年は1月立川記念②①③③着と好スタートを切った嘉永ながら、続く同月いわき平記念の初日に落車し、2日目から欠場している。地元の大一番に体調を整えられたら、切れ味鋭いスピードを発揮して優勝争いに加わってこよう。

注目は犬伏湧也、石原颯の四国コンビだろう。1月高松記念in小松島の決勝は、逃げた犬伏に乗った石原が、番手まくりを放って記念初Vを4連勝で達成した。ワールドクラスのスピードを持つ太田海也を清水裕友、松浦悠士が盛り立てる中国勢も侮れない。

嘉永泰斗は、1月大宮記念の準決で落車し、ここがぶっつけ本番になる。



嘉永泰斗



福願い鬼神走る

熱走火の国、ふたたび

第41回読売新聞社杯 全日本選抜競輪GI

2026年 2月20日(FRI) 21日(SAT) 22日(SUN) 23日(MON)

熊本地震から10年 皆様を支えられた日々を、支え合いに。

熊本けいりん KUMAMOTO KEIRIN



郡司浩平

松島②①②着と7走続けて連対中。躍動感にあふ

選手名	登録地	期別	競走得点	近4ヶ月前期得点	近4ヶ月今期得点	BS HS 打点
嘉永泰斗	熊本	113期	115.64	116.24	116.50	③④⑤①
古性優作	大阪	100期	116.78	118.30	117.50	②③④②
南修二	大阪	88期	113.53	117.83	113.28	②③④⑦
寺崎浩平	福井	117期	114.88	117.83	113.28	②③④⑦
脇本雄太	福井	94期	117.44	116.45	117.00	②③④⑦
郡司浩平	神奈川	99期	116.44	116.45	117.00	②③④⑦
真杉匠	熊本	113期	116.06	119.52	112.17	②③④⑦
吉田拓矢	茨城	107期	117.53	119.52	112.17	②③④⑦
阿部拓真	宮城	107期	113.00	119.52	112.17	②③④⑦

読売新聞社杯全日本選抜競輪 出場予定選手														
級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
SS	南修二	大阪	88期	113.53	S1	菅田孝道	宮城	91期	111.96	S1	林大悟	福岡	109期	106.33
SS	脇本雄太	福井	94期	117.44	S1	神山拓弥	栃木	91期	110.50	S1	木屋豊	三重	111期	108.96
SS	郡司浩平	神奈川	99期	116.44	S1	宿口陽一	埼玉	91期	108.19	S1	小森貴大	福井	111期	107.33
SS	古性優作	大阪	100期	116.78	S1	和田圭	宮城	92期	110.00	S1	田尾駿介	高知	111期	107.25
SS	阿部拓真	宮城	107期	113.00	S1	三谷将太	奈良	92期	111.73	S1	松本貴治	愛媛	111期	111.75
SS	吉田拓矢	茨城	107期	117.53	S1	山田久徳	京都	93期	112.59	S1	山崎賢人	長崎	111期	107.69
SS	真杉匠	熊本	113期	116.06	S1	岩本俊介	千葉	94期	110.08	S1	小林泰正	群馬	113期	111.95
SS	嘉永泰斗	熊本	113期	115.64	S1	山田庸平	佐賀	94期	114.50	S1	松井宏佑	神奈川	113期	114.54
SS	寺崎浩平	福井	117期	114.88	S1	小原太樹	神奈川	95期	110.56	S1	中益章成	大阪	113期	109.00
S1	香川雄介	香川	76期	108.00	S1	河端朋之	岡山	95期	107.86	S1	小原佑太	青森	115期	103.61
S1	小倉竜二	徳島	77期	110.14	S1	川津悠輝	北海道	96期	105.93	S1	佐藤礼文	茨城	115期	108.23
S1	佐藤慎太郎	福島	78期	109.64	S1	守澤太志	秋田	96期	111.95	S1	坂井洋	栃木	115期	109.45
S1	諸橋愛	新潟	79期	108.96	S1	雨谷一樹	栃木	96期	108.59	S1	佐々木悠葵	群馬	115期	109.38
S1	桑原大志	山口	80期	109.00	S1	松谷秀幸	神奈川	96期	112.41	S1	杉浦侑吾	栃木	115期	109.84
S1	荒井崇博	長崎	82期	115.50	S1	深谷知広	静岡	96期	112.22	S1	伊藤颯馬	沖縄	115期	105.81
S1	東口善朋	和歌山	85期	107.85	S1	西村光太	三重	96期	107.89	S1	菊池岳仁	長野	117期	110.50
S1	村上博幸	京都	86期	110.59	S1	岡崎智哉	大阪	96期	106.77	S1	櫻井祐太郎	宮城	117期	106.93
S1	和田健太郎	千葉	87期	110.45	S1	山形一気	徳島	96期	106.77	S1	鈴木玄人	東京	117期	112.22
S1	岩津裕介	岡山	87期	110.77	S1	塚本大樹	熊本	96期	110.56	S1	佐々木真也	神奈川	117期	107.75
S1	園田匠	福岡	87期	108.70	S1	武藤龍生	埼玉	98期	112.00	S1	山口拳矢	岐阜	117期	114.11
S1	佐藤友和	岩手	88期	109.06	S1	松浦悠士	広島	98期	114.06	S1	石原颯	香川	117期	112.23
S1	成田和也	福島	88期	110.62	S1	和田真久留	神奈川	99期	109.52	S1	伊藤旭	熊本	117期	107.89
S1	山崎芳仁	福島	88期	109.14	S1	阿部力也	宮城	100期	110.19	S1	松岡辰泰	熊本	117期	108.82
S1	柏野智典	岡山	88期	107.40	S1	恩田淳平	群馬	100期	106.97	S1	吉田有希	茨城	119期	107.26
S1	渡部幸訓	福島	89期	114.50	S1	吉澤純平	茨城	101期	111.17	S1	志田龍星	岐阜	119期	109.16
S1	上田国広	三重	89期	106.33	S1	三谷竜生	奈良	101期	109.45	S1	犬伏湧也	徳島	119期	112.90
S1	橋本強	愛媛	89期	108.87	S1	杉森輝大	茨城	103期	104.22	S1	中野慎詞	岩手	121期	113.48
S1	山田英明	佐賀	89期	114.05	S1	岡本総	愛知	105期	106.88	S1	太田海也	岡山	121期	114.13
S1	新田祐大	福島	90期	107.72	S1	清水裕友	山口	105期	112.90	S1	村田祐樹	富山	121期	100.13
S1	浅井康太	三重	90期	112.93	S1	新山響平	青森	107期	111.38	S1	東矢圭吾	熊本	121期	109.05
S1	村田雅一	兵庫	90期	108.41	S1	鈴木竜士	東京	107期	109.52	S2	野田源一	福岡	81期	106.76
S1	小川勇介	福岡	90期	110.84	S1	取島雄吾	岡山	107期	109.45	S2	福川翔	大阪	90期	110.61
S1	北津留翼	福岡	90期	111.12	S1	高橋築	東京	109期	110.32	S2	渡邊豪大	福岡	107期	106.40
S1	小岩大介	大分	90期	107.33	S1	末木浩二	山梨	109期	98.37	S2	寺沼拓摩	東京	115期	107.26
S1	松岡貴久	熊本	90期	107.56	S1	佐々木龍	神奈川	109期	111.61	S2	中石湊	北海道	125期	105.82
S1	永澤剛	青森	91期	108.78	S1	佐々木豪	愛媛	109期	106.29					

※2026年02月09日時点

第41回読売新聞社杯 ALL JAPAN SELECTION KEIRIN in KUMAMOTO
全日本選抜競輪GI
 2026 2月20日(金) 21日(土) 22日(日) 23日(祝月)

イチ押し!

記者の



小山 記者



東矢圭吾

石原颯

石原颯は小松島で行われた地元の高松記念でGⅢ初制覇。記念ウィナーになった石原だが、常日頃から「GIで活躍する選手になりたい」と語っているように、本番はここからという気持ちだろう。23年、24年はGI出場がなかったが、25年は5回のGI出場で7勝をマークした。「同期の寺崎(浩平)さんに組んでもらった練習メニューをこなしています」とタイトルホルダーからのアドバイスも得てトップクラスで戦える自力を手にした。2年連続S級最多勝に輝いた石原が今度はGIで躍動だ。

熊本勢にとっては、待ちに待った地元GIの開催。東矢圭吾は、養成所でゴールデンキアップ2回を獲得したエリートで、昨年は3回のS級優勝と力をつけてきた。「モチベーションを高くもって練習ができています。1年、1年ちよつとずつステップアップしてきましたし、いい感じが上がってきました」と成長を実感する。「もちろん決勝はいきたいですけど、まだGIの準決勝も乗ったことがないので、そこを目指して」。嘉永泰斗を総大将にまとめる地元勢の活躍に注目が集まる。



竹内 記者



西田優大

小原佑太

昨年12月末で5年以上在籍したナショナルチームを引退した小原佑太が、競輪一本になってから初めて迎えるGI。さらには今年グランプリの舞台が北日本地区のいわき平になったことも、気持ちを高ぶらせる要因だ。「まだ自分はGIの決勝に慣れていない。今年はグランプリが平なので、GIの決勝に慣れて、1人でも多くグランプリに(北日本勢を)乗せられるように」

競技用のカーボンフレームとそれとは違う競輪用との違和感に悩まされた数年から解放された小原の開花に期待したい。

まだまだ大舞台での経験が浅い西田優大のGI初勝利を狙ってみたい。昨年7月の小松島であつと言わせる大まくりで記念初制覇を遂げたものの、その後はなかなかブレイクできていない。二次予選敗退となった平記念でも「脚も気持ちも(その前の)取手くらいから良くないと、トーンダウン。ただ、GIなら警戒が薄れるだけに、まくりでも一発がありそうだし、先行でも粘り込みがあるかもしれない」。



細川 記者



山崎賢人

小原太樹

小原太樹は決め脚の鋭さが抜群で、いざとなれば自らタテにも踏み込める魅力がある追い込み選手だ。昨年11月の競輪祭は展開に苦しみ一次予選で敗退したものの、後半3日間で3勝の固め打ち。GIの決勝は過去に3度経験しているが、一度も確定板を外していない。新しくなった熊本バンクは初出場となるが、直線の長い当所なら多少の展開不利があってもコースを探して突っ込める巧者。南関地区の豊富な機動型を巧みにリードしてともに勝ち上がりを目指す。

昨年末でナショナルチームを引退して競輪に専念する覚悟を決めた山崎賢人。今年初戦の平記念で自転車のセッティングにアタリが出て、積極的な仕掛けを続けて決勝に進出と存在感を示した。「嘉永(泰斗)もそうですけど、(ナショナルチーム経験者の)寺崎(浩平)君や新山(響平)さん、松井(宏佑)さんも強いので、いい刺激になっている。今年はずっとGIでも活躍できるように」と21年以來となるGI決勝の舞台を目指して自慢のスピードを披露する。



権田 記者



吉田有希

小林泰正

小林泰正が乗れている。前々回の平記念の前には「重馬場 “を意識して、「バンクと街道を中心にしつかりと風を浴びてきた」。その効果がでてきた平記念では、オール連対の準V。脇本雄太にのみ込まれた決勝は悔やむことしきりだったが、続く前回の松阪で優勝。少しは溜飲を下げたことだろう。平記念から投入した新車も手ごたえ抜群。「最後まで踏めている。成績もついてきているし、うまくマッチしている」。昨年はGI優出が一度もなかった小林が、26年初っ端でいきなり結果を出す。

今年は兄の拓矢(107期)がS班にカムバック。誰よりも間近に見てきた吉田有希にも、変化がないはずはない。3場所前の平記念では、勝ち上がりの3走ですべてバックを取り、オール2着で決勝に進出。

「今年は自転車に向き合う時間を増やそうと思って、練習量を増やしたりして乗る時間を長くした」

平記念後の2場所もすべて3着以内で連続優出。どんなに、今年は目の色が違う。